

「年金の日（仮称）」検討会について

1. 趣旨

国民一人一人に、「ねんきんネット」等を活用して年金記録や自分の公的年金の受給見込額を確認していただき、企業年金・個人年金・貯蓄等を含め、老後の経済設計に思いを巡らしていただくことを目的として、「年金の日（仮称）」を制定することとしたい。

具体的な目的は、次のとおり。

- ① 「国民一人一人に老後の経済設計に思いを巡らしていただくこと」を呼び掛ける
- ② 「国民一人一人に年金記録を確認していただくこと」を呼び掛ける
- ③ 併せて、「いつでも、年金記録の確認や未統合記録の検索、年金受給見込額の試算が可能な「ねんきんネット」を利用していただくこと」を呼び掛ける

2. メンバー

いそ むら もと し
磯 村 元 史 （函館大学客員教授）

くさ の みつ よ
草 野 満 代 （フリーキャスター）

たて かわ ちよう
立 川 らく 朝 （落語家）

はな わ よう こ
花 輪 陽 子 （ファイナンシャル・プランナー）

ふか ざわ り か
深 澤 理 香 （社会保険労務士）

みず しま とういちろう
水 島 藤一郎 （日本年金機構理事長）

（五十音順、敬称略）

3. 検討会（7月7日）における主な議論

(1) 「年金の日（仮称）」について

- ・ 日にち 11月30日（「いいみらい」の語呂合わせ）

※他の候補 11月1日（国民年金法施行日）、11月4日「白々あんしん」、11月10日「白々じゅうそく」、11月14日「いいとし」、11月25日「白々（いつも）ニコニコ」

- ・ 名 称 「年金の日」

(2) 「年金の日」の周知方法等について

- ・ 公的年金の将来や高齢期の生活設計についての「やみくもな不安」をなくすためには「年金の日」のような契機にしっかりと周知をすることが重要。
- ・ 世代ごとに接触するメディアが違う。戦略が必要。
- ・ 60代、70代には、地元の新聞とのタイアップが一番効果がある。
- ・ 若い世代には、ニコニコ動画など、インターネットを通じたメディアの活用がよい。
- ・ ニュースになるようなイベントが必要。
- ・ 集客力のある著名人は重要。「笑い」を絡めるのもよい。
- ・ 記録問題について、取り上げてもらえる話題、分かりやすい訴えなども必要。
- ・ 単に「年金」というのではなく、「女性の年金」、「セカンドライフと年金」というと人は集まる。
- ・ 老齢だけではなく、障害年金や遺族年金もあることの周知も必要。
- ・ 働いている女性はお金のセミナーに多く集まっているので、そうした取組を行う金融機関とタイアップするのもよい。
- ・ シニア世代をGG（グランド・ジェネレーション）と呼ぶ取組もある。スーパーやドラッグストアなど、民間の連携、連動できる相手先はたくさんある。